



五十嵐京子通信

小金井で元気に

小金井を元気に

小金井市本町3-8-9-312

第41号

H28.6.1

部下を持ち検証する手段を持っていないながら、検証もせずに公式発言をした可能性が否めない。

6施設複合化は

平成二十八年度一般

「公約撤回」ではなく

果たして有効か？

会計予算審査の中で

「一部変更」と言うが…

5月23日に、三月議会で否決されたために、暫定予算となっていた平成28年度小金井市一般会計予算の審査が行われた。三月議会では民進党を除く全ての会派が予算に反対、多くの会派が理由として挙げていたのは、選挙中の公約であった蛇の目跡地への庁舎・図書館・福祉会館等6施設複合化の道筋が見えないことであった。既に庁内に検証プロジェクトチームが設置されているが、選挙公約の実現性を当選後に検証するというのも前代未聞だ。公約は市民に実現を約束することである。

予算審査の中で自民党議員からあらためて6施設複合化の質問をされ、突然の方針変更を表明、6施設ではなく庁舎等と福祉会館の4施設を先行整備すると発言した。

こうした質疑の中で、「公約の方針変更ではないか」とか「公約撤回ではないか」との質問に対してはそれを否定し、一部変更と強調したが、公約では、6施設複合化で建設費や維持管理費などがコスト削減に繋がると主張していたことを考えると、根拠は大きく崩れ、事実上の公約撤回である。

しかも、六月議会では庁内プロジェクトの検証の中間報告を、さらに8月には最終報告をすることになっており、プロジェクトチームには検証を命じたまま突然議会で方針変更をしたのだ。市役所という組織のトップである市長としてのやり方にも問題がある。

さらに、4施設になることで財政効果があるのか、本当に早期にできるのかなど示されておらず、すでに市長になって

財政上の検証、スケジュールの検討など議会からの疑問に答える準備も必要だが、その前に、街づくりの視点や危機管理上の視点、将来の建て替え時の課題など6施設複合化が果たして有効かの説明をまずすべきである。何故なら、既に蛇の目跡地での総合庁舎建設の基本構想・基本計画ができており、これらを大きく変更することになるからである。こうした計画の作成には基本構想など市が持っている関連計画との整合もとらなければならぬ。

思い付きの政策議論はもう止めるべきである。多くの市民は市政の先行きに不安を持っている。6施設複合化にした場合の将来の建て替えのことだけを考えてもかなりの困難が立ちだかる。結局、次世代へのつけにないかねないのである。